



九条の樹

104号
2024年1月発行

発行：東久留米「九条の会」 連絡先：TEL 042-473-9489（鈴木）

http://higashikurume-9.net/ メール：higashikurume9j@gmail.com



憲法九条では日本は 守れないのか？

「武力には武力で」の大合唱

昨年はウクライナの戦争があり、中国による台湾侵攻も心配され「侵略に備えるには無防備ではだめだ。対抗するための軍備が必要だ。九条なんて役に立たない」という声や「日本も核武装が必要だ」との主張もありました。国民の不安に乗じて岸田内閣は「敵基地攻撃能力の保有」や5年間で43兆円の防衛費を決めました。南西諸島に自衛隊配備やミサイル基地建設を進めています。

こういうききな臭い今の日本では、憲法のことを考えることこそが大切ではないでしょうか。

改憲派は、戦争をするにはやはり今の九条があつては邪魔なので

す。自民、維新の会などが憲法審査会を毎週開いて、早く改憲案を作ろうとしているのもそのためです。

九条はどうしてできたの？

九条はどういうものでしょうか。内容は、

○戦争と、武力による威嚇（おどすこと）または、武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久に放棄する。

○陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

とてもシンプルでしょう。

この憲法が公布されたのは1946年です。今年で78年目です。

その前年まで日本はドイツ、イ

タリアと同盟を結んで、世界を相手に植民地の分捕りのための世界戦争をしていたのです。その結果、中国、朝鮮などアジアの人々の土地や食料、資源、人命を奪いました。最後は東京は焼け野原となり、2発の核兵器を投下されてやっとな戦争をやめたのです。

日本が受け入れた連合国側（米英中など日本と戦っていた側）提案のポツダム宣言には日本の降伏と領土、日本の民主化、非軍事化を定めています。

日本を占領したアメリカ軍は日本の民主化、非軍事化のために新しい憲法を求めたのです。現在の憲法の、基本的人権などの民主主義や戦争放棄の方向は、それまでの国際的な論議の中で出てきたものです。日本国憲法のできる前年1945年10月発効した国連憲章にも「紛争の平和的解決、武力行使と武力による威嚇の禁止」が定められています。

（次ページにつづく）

九条で日本は守れるの？

「ウクライナのように、一方的に攻められたらどうするのか。中国が尖閣諸島に上陸してきたらどうするのか。九条なんて力にならないのではないか」、「日米安保があるから安全が守られたのではないか」そういう心配や考え方をする人たちがいます。

一方で「九条を変えるべきではない」、「九条が日本と日本国民を守ってきた」「戦争しなかったから戦後の経済成長があった」と考える国民も多いのです。

憲法9条が武力の行使を禁じ、同盟国であるアメリカから要請があっても戦争に参加せず、一人の国民も外国人も戦争で殺さなかったことは世界に誇れることです。

過去の日本国はほぼ10年ごとに戦争をしていました。日清日露戦争、シベリア出兵、満州事変、日中戦争、太平洋

戦争と繰り返して多くの悲劇を生み破滅しました。

憲法9条を持つ国としてアジアに平和の枠組みを作り、武力ではなく話し合いで紛争を解決することが、政府や国民が取り組むべきことだと考えます。皆さんの感想ご意見を お寄せください。

東久留米「九条の会」は、自衛隊に対する考え方や、政治、宗教に関係なく平和憲法を守りたいという一点で共同する市民の会です。いろいろな話し合い、学習会などを通じて理解を深めあい、九条を壊す動きに反対して、平和憲法を次の世代につなげていきたいと考えています。ご賛同、ご協力をお願いいたします。

会費は無料です。ご希望の方にニュースをお届けします。

042-473-9489

事務局 鈴木まで メールは higashikurume9@gmail.com

東久留米「九条の会」18周年のつどい

「憲法ってなに？」

ジエンダーって」

菱山南帆子さん講演 ②

世の中マジやばいのは分かってる

給料上がらなくてもしかたがない？



10月9日東久留米「九条の会」18周年のつどいが、生涯学習センター（まろにえホール）で開催され、当日は雨天の中160名が来場しました。講演の要旨、前号の続き2回目です。

私の同級生と政治の話をして「えー、でも経済が」とか経営者マインドなんです。ね。「しかたない」ってよく言うんです。「年金もらえなくなっちゃたよ」「給料上がらなくたってしかたないよ」「給料上がらなくたってしかたないよ」。買いたいこともやりたいことも全部がまんして老後のたくわえのために生きている。自己責任と自己解決型なんです。1989年あたりからそういう風潮になっている気がします。「社会は変えられない。自分が変わればよい」という考えです。

団塊世代は学生運動や労働運動で社会が変わる成功体験を持っていて。たたかうことや、団結することを知っていますが、今の若い世代にはそれが無い。

若い人たちは変化を嫌うんです。チェーン店が好きです。どこで食べても同じ味と品質で安心するのです。考えることが苦手になっていきます。短い動画で分かりやすいフレーズで訴える維新や参政党が受けるのです。「俺たちに任せとけよ。俺たちが考える！」という感じ。私たちが「いっしょに考えましょう」「いっしょにたたかきましょう」と言いますが彼らには耳の痛い話です。「わかってるよ。世の中マジやばいのは」でもどうしたらいいのかわからないから、強そうな人にひかれていくんだな、と思います。

〇〇は、**ずるい！**

橋下徹さんはこれで一世を

風靡（ふうび）してきました。最初にやったのが「公務員はずるい！」です。「定時で上がって、ボーナスもらって、退職金もらって公務員はずるい」とやりました。なにも悪くないのです。8時間働いて8時間好きなこととして、8時間眠る、これは私たちが勝ち取ってきた権利です。何もずるくありません。就職氷河期世代が、本当ならば労働組合に入っ

て戦うべきなのに「そうだな。公務員はずるいよな。俺たちこんな苦労しているのに」ということで、大幅な公務員の削減があり、そのことによって自分たちの首を絞めることにつながります。そうすると次に「俺たちこんながんばってるのに国の金で暮らすなんて生活保護はずるい」とか障がい者はずるいになるわけです。次は「女性はずるい」です。差別と分断が広がっていきます。「女性にホームレスが少ない」とい

う人もいます。少ないわけではない。路上で女性が寝るのがどれだけ危険かわかっていないのです。炊き出しに集まる人にも女性はいますが、女性と分からないような格好で来ます。分かれると危険だからです。

新宿のバスターミナルの女性トイレで寝ている女性もいます。女性の貧困は見えにくいのです。「女性は子どもがいれば生活保護取りやすい」という人がいますが、とんでもないです。役所の窓口で「誰か頼れる男性いないの」なんて聞かれます。男性には言わない「頼れる女性いないの」なんて。

ネットで「〇〇はずるい」というようなネット右翼と言われる人と会ったのですが、彼らもバイトでとても苦しい生活をしている。親の介護して人もいて職場でバカにされてやめた、その憎しみを匿名で女性たちにぶつけて攻撃し

ています。

このねじ曲がった社会ですが、いいこともありますね。西武デパートのストライキ。生きているうちに見られてよかったです。思いました。(笑)大手デパートでは6年ぶり。支援の人たちものぼりを挙げてがんばっていました。デモとかのぼりとかダサイ、と言われますがスタイルの問題じゃないです。ほんとに戦わなければならぬ時、スタイルなんて言ってられないと思います。少しずつ変わってきているのではないかと。みんなデモやストライキをやらなきゃだめなのかなあと思い始めたのではないのでしょうか。

(文責事務局)

Coming soon

松元ヒロ ソロライブ
in **東久留米** 決定！
4月29日(月・休)
東久留米市生涯学習センター
まろにえホール
17:00~19:00(予定)
テレビで会えない芸人
お笑いで権力を斬る
極上の社会派インタビューメン
自身が憲法になりきる
「憲法くん」など・・・
乞うご期待！
主催：松元ヒロにあう会

子どもを殺すな！ ただちに停戦を！ stop! genocide in GAZA

12月9日、「戦争はイヤ！声をあげよう実行委員会」主催で、東久留米駅の西口、東口、北口に70人余が参加して、子どもを殺すな！ただちに停戦を！stop! genocide in GAZAのスタンディング宣伝を行いました。

イスラエル大使館への「子どもを殺すな！即時停戦を求めます」FAX、岸田首相へ、「9条を持つ国として、関係国へ、ガザへの無差別攻撃の中止、戦争の即時停止を働きかけることを求めます」FAXを送ることも訴えました。26人がこれに賛同し住所氏名を書いてくれました。ガザ人道支援募金が8000円、ガザ攻撃中止せよ！のビラ250枚を配布することができました。



西口



東口 ←

北口 →



『平和を考える本』
『いとほんのポン菓子』
(歌川たいじ・作/光文社文庫)
814円(税込み)



第二次世界大戦末期、国民学校の教師・橘トシ子は、毎朝、新聞紙を揉んで柔らかくして、生徒の下痢使用の落し紙を作りながら考えた。栄養失調で下痢が止まらず、抵抗力が無くて感染症で死んでゆく子どもたちに食べさせる物はないか？少ない燃料と穀物で大量に作れる「ポン菓子」の存在を知る。アメリカ由来のこの菓子製造機的设计図を手に入れ、まず製造機を作らねば！ それには自分で製造工場を立ち上げるしかない、鉄の町・北九州に単身乗り込む。

大阪の旧家の「いとほん」トシ子の奮戦記には、実在のモデルがいて、子どもだけではなく大人も飢えから救い、復員兵にも職を用意することとなった。(高田桂子)